保育所 シオン園保育所
2022 年度 事業報告

1 総括

「子どもまんなか社会」の実現に向け、保育所の担う役割が大きく期待されている昨今、収束しない新型コロナウイルス感染症の対応、児童虐待防止、事故防止に向け安全管理への徹底等、保育園に課せられた問題は多いが、子どもの最善の利益のため、日々の丁寧な保育の積み重ねを大切に、職員一同気を引き締めて保育に取り組んだ一年であった。

2022 年度も新型コロナウイルスによる社会経済の影響は大きく、2022 年の荒尾市の出生数は 307 人で 2020 年の 400 人から約 100 人近く減少しているとの事である。保育園の入所児も減少傾向にあり、0 歳児は 2022 年度も年度途中での入所希望が多かった。(2022 年 3 月は 24 人、4 月時点では 7 人) 経営状況も厳しくなってきている。質の高い保育を目指すにはより良い人材が必要となり保育士確保は必須であるが、収入と収支のバランスを鑑みて勤務体制や人件費を見直し、運営の安定化に努めて行きたい。

2 主な取組とその評価

(1)新型コロナウイルス感染症対策

○ 「保育所における感染症ガイドライン」や法人本部からの関係文書を踏まえ「シオン園保育所感染症マニュアル」を見直し感染症対策を徹底した。

○ 第 7 波と第 8 波では家庭内感染による感染者が続出し心配したが、緊急メールを活用してコロナ感染者の情報を正しく伝え感染拡大防止に努めた。2022 年度の感染者は、園児 64 名、職員 20 名であった。

○ 今年度も日々の保育の中で園児の健康チェック表の提出、マスク着用 (3 歳児以上) 換気、手洗い、除菌、手指消毒を継続して行い感染症対策に取り組んだ。 園児の活動、行事は密を避ける為クラス単位で行い、保護者参加の行事も状況を見ながら検討し感染対策を行いながら開催した。

重点目標	評価	実績等
新型コロナウイルス感染症対策	○	・緊急メールを活用し、保護者に感染者状況を正しく迅速に伝えることにより園内におけるクラスターを防ぐことができた ・感染対策を行い、保護者の協力を得ながら予定通り行事を開催することができた

◎達成できた、 ○ある程度は達成できた、△ (あまり) 達成できなかった (以下同様)

（２）保育の内容の充実を図る

○　0，1，2 歳児クラスは育児担当制の学びを深め一人ひとりの子どものペースに合わせた保育を実践した。

○ 3，4，5 歳児クラスは 3，4，5 歳児を 3 つのグループに分け異なる年齢の友だちと仲よく交わって遊ぶ保育活動を計画に入れていたが、コロナの関係もありクラスでのが主となり異年齢児グループによる活動はあまりできなかった。

○ ウイズコロナとし行事、保育内容を検討。子どもたちが楽しく参加できる内容を考え実施した。

重点目標	評価	実績等
保育内容の充実を図る	△	・0，1，2 歳児は育児担当制保育を行うことにより子どもと担当保育士との愛着形成が深まっていた ・3，4，5 歳児の異年齢児保育については園全体で学びを深め話し合う時間が必要

（３）組織力の向上

○ 職員会議、リーダー会議、行事プロジェクト会議、連絡会議とそれぞれの会議の在り方を見直し再確認した。全員が会議には出席できないため会議後、出席した職員は必ずクラスに戻り内容を報告し、担当者が会議録を回覧して全職員が確認チェックをすることにより漏れがなく園での情報を共有できるようにした。

○ クラスを超えた連携、協力体制が機能できるよう話し合い取り組んだ。

○ 2022 年度より法人主導で 3 園の保育所が合同で正規保育士を募集し採用試験を実施した。

法人事務局、姉妹園との情報共有ができ連携も深まり組織力向上に繋がる試みだと感じる。1 名新規採用、1 名非常勤より正規職員へ転換。

○ 園長との面談が、1 回しかできず、個々のビジョン課題等についてしっかりと聞くことが出来なかった。

重点目標	評価	実績等
組織力の向上	○	・職員間での報告、連絡、相談、確認の手順を徹底することで互いの役割が少しずつ明確になった

（４）地域、関係機関との連携

○ 感謝訪問で年長児が 3 グループに分かれ近隣の郵便局、商店、運動公園事務所を訪問し感謝の言葉を伝えた。

○ 看護学生、中高生の実習はコロナ感染防止により中止となった。

○ コロナの関係で老人施設、小学校の訪問、地域の行事に参加することができなかった。

○ 校区の保、幼、小、中園長校長会、保幼小懇談会に園長や保育士が出席し情報交換を行い連携に努めた。

重点目標	評価	実績等
地域、関係機関との連携	△	・コロナの影響により今年度も老人施設、小学校との交流訪問ができなかった ・予定されていた看護学生、中高生の実習もコロナの関係で中止となった

（５）子育て・保護者支援

○ コロナ禍で子育ての悩みを話せる場が減っていることもあり、園に保護者から子育てに関する様々な悩みが寄せられた。子育ての不安や負担感が軽減されるよう話を聞き丁寧に関わっていくようにしたが、保育園だけでは対応が難しい場合は、子育て支援課、保健センター、医療機関等の関係機関と連携を取り子どもと保護者がより良い環境の中で生活できるよう支援を行った。

○ 市心理士の先生による巡回相談では相談後に発達検査を受ける園児が増えたが、保護者も検査の結果を先生からお聞きすることで子どもの特性や苦手なところが理解でき、一緒に支援方法を考えていくことにより園と保護者の信頼関係も深まった。

重点目標	評価	実績等
子育て・保護者支援	○	・巡回相談後の面談に、保護者と心理士の先生、園長、担任が出席 様々な視点から子どもの話を聞くことができ、子育てに関する悩みや不安が軽減でき良かったという保護者の声が聞かれた。

（６）施設経営の安定化・コスト削減の取り組み

○ 節電、節水、ペーパーレス等職員一人一人が意識して経費削減に努めるよう話を定期的にする。保護者に配布する手紙は内容に応じ、メールで大丈夫なものはメールでお知らせするようにしていくことでペーパーレスを推進した。

○ 今年度も新型コロナ感染症の影響で園児の入所が予定人数より減少したため委託費も減となる。０歳児は年度途中の入所者が決まっているため保育士の確保も必要となり人件費も嵩み経営状況も厳しくなる。

重点目標	評価	実績等
施設経営の安定化・コスト削減の取り組み	△	・ペーパーレス化、節電、節水、節約の推進が積極的に出来なかった ・勤務体制、人件費の見直し(継続)

3 サービスの利用状況

園児在籍数　2022 年度　　（定員 150 名）

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	年間平均数
0 歳児	7	9	10	12	14	15	15	16	19	21	23	24	15.4
1 歳児	17	17	18	18	18	18	18	18	20	20	20	20	18.5
2 歳児	25	25	25	25	25	25	25	24	24	24	24	24	24.5
3 歳児	32	32	32	32	32	32	32	32	32	32	32	32	32.0
4 歳児	30	30	30	30	30	30	30	30	31	31	31	31	30.3
5 歳児	31	31	31	31	31	31	31	31	31	32	32	32	31.2
合　計	**142**	**144**	**146**	**148**	**150**	**151**	**151**	**151**	**158**	**160**	**162**	**163**	**152.1**
昨年比	-14	-10	-9	-8	-6	-7	-9	-10	-4	-4	-3	-3	
稼動率	94	96	97	98	100	101	101	101	105	107	108	109	101%

2022 年度も新型コロナウイルスの社会経済の影響は大きく、2020 年の荒尾市の出生数が 400 人だったのが 2022 年 307 人と約 100 名も減少していることがわかり、当園だけでなく入所児が減少し、荒尾市のほとんどの園が定員割れしていると話を聞き大きな危機感を覚える。今年度も 4 月の 0 歳児クラスは 7 人と人数が少ないのは経営的に厳しかったが、今後も育休をぎりぎりまでとられ仕事に復帰される、年度途中での入所を希望される家庭が増える事は予想される。

4　苦情対応の状況

7 月 15 日と 3 月 9 日に苦情委員会開催。第三者委員に苦情の内容と園の対応を報告し助言を求めた。

※2022 年度は次のような苦情に対応した。

① 保育士の対応について　(保護者より連絡帳に記載)

園児の送迎の時間について細かく尋ねられ苦手意識を持っていた。もう少し親への対応、接し方を考えて欲しい。

・ 母親は産後で心身ともにまだ不安定な時期だという事を考慮し、母親の気持ちに寄り添う姿勢を大事にし、言動には十分気を付けるよう職員で話し合った。

園長と担任で謝罪　　その後、この件に対する申出、意見はない。

② 園児の駐車場のマナーについて　(駐車場の現場を見ていた保護者より)

園児が駐車場で友達が乗った車を追いかけて他の車とぶつかりそうになり危なかった。

・ 園児が特定できたので園児の保護者には園長が内容を伝え注意喚起を行い、担任より園児とクラスの子どもたちには駐車場での約束をした。

園の便りに掲載　　その後、この件に対する申出、意見はない。

③ 友だちとのトラブルについて　(保護者より連絡帳に記載)

「友だちに足を蹴られた」と子どもが話したが、蹴った友だちの親には話をしているのか？

・ 保護者には担任からその時の状況説明を行い、相手の保護者には内容によってはきちんと伝えている事を話すと納得された。その後、この件に対する申出、意見はない。

④ 戸外遊びの際の園児の把握について （保護者より）

夕方、外遊びの時に迎えに行くと、担任が「○○くんはお部屋にいますよ」と言われたので部屋を見に行ったらおらず園庭で遊んでいた。子どもがどこで遊んでいるかきちんと把握していて欲しい。

・ 戸外遊び時には、外にいる子、お部屋にいる子をしっかり把握し、お迎え時はよく確認して保護者に伝えるよう職員と話し合った。

園長と担任で謝罪　　その後、この件に対する申出、意見はない。

5　主な行事

月	日	行　事	月	日	行　事
4	4	入園、進級式	10	1	運動会(3，4，5歳児とその保護者)
	15	イースター		14	幼児祝福式
	22	誕生会		18	バルーンアート
	28	子どもの日		21	誕生会
5	6	母の日	11	2	健康診断
	20	誕生会		8	ふれあい動物園
				11	誕生会
				15	感謝祭
				16	感謝訪問(年長児)
				22	遠足（年中、年長児とその保護者）
6	2	歯科検診	12	2	誕生会
	8	健康診断		17	5歳児クリスマス
	10	花の日		20	もちつき（中止）
	17	父の日		23	全体クリスマス
	24	誕生会	1	14	誕生会
7	7	七夕		21	シオンフェスタ
	15	誕生会	2	3	節分
	29	サマーカーニバル(年長児)		17	誕生会
			3	3	ひなまつり
8	19	誕生会		10	誕生会
9	9	誕生会		18	卒園式（卒園児とその保護者）
	16	敬老の日			

６　研修の実施状況

４月　１日	慈愛園新任職員研修	１名
８日	慈愛園職員新任研修(ｚｏｏｍ)	２名
５月　９日	キリスト教保育連盟九州部会設置者園長研修(ｚｏｏｍ)	１名
２３日	新任保育士研修(ｚｏｏｍ)	１名
６月１０日	次世代保育リーダー養成往還型研修（第１回）	１名
１８日	応急手当普及員講習会	４名
１８日	キリスト教保育連盟九州部会保育者研修	３名
７月　６日	主任、副主任等研修会(ｚｏｏｍ)	１名
１２日	園長、保育士、給食担当者研修	１名
１９日	障がい児保育研修(ｚｏｏｍ)	１名
２１日	次世代保育リーダー養成往還型研修(第２回)	１名
８月　２日	３，４，５歳児保育研修(ｚｏｏｍ)	１名
３日	保育指針（保育の環境）研修	１名
１６日	未満児保育研修(ｚｏｏｍ)	１名
２０日	荒尾市人権同和教育研究大会	１名
２２日	ルーテル社会福祉協議会研修(ｚｏｏｍ)	１名
９月　１日	保育問題セミナー研修(ｚｏｏｍ)	１名
９月１７日	キリスト教保育連盟熊本地区秋季保育者研修(ｚｏｏｍ)	５名
１０月　３日	発達障がい基礎研修(ｚｏｏｍ)	１名
４日	次世代保育リーダー研修(第４回) （ｚｏｏｍ）	１名
７日	園長、副園長研修(ｚｏｏｍ)	３名
１１月　４日	次世代保育リーダー養成往還型研修(第５回)	１名
１０日	荒尾市特別支援連携協議会研修	２名
１０日	園長、保育士、給食担当者研修(ｚｏｏｍ)	１名
１４日	発達障がい実践研修	１名
１７日	福祉サービス苦情解決研修(ｚｏｏｍ)	１名
１７日	荒尾市保育士、幼稚園教諭研修	２名
２１日	幼小等連携アプローチカリキュラム研修	１名
１１月２４日	保育指針(保護者支援)研修(ｚｏｏｍ)	１名
１１月 25,26 日	慈愛園職員研修	１名
１２月１５日	慈愛園職員研修	１名
１月１４日	キリスト教保育連盟九州部会主任研修(ｚｏｏｍ)	１名
１４日	育児担当制研修(第１回)	２名
１月３１日	熊本県保育研究大会(ｚｏｏｍ)	１名
２月　４日	育児担当制研修(第２回)	２名
１８日	荒尾市保育協議会保育士研修	１０名

３月　４日　　乳児期の子どもの食(離乳食、食事)について(ｚｏｏｍ)１０名

キャリアアップ研修

幼児教育	１名	保健衛生・安全対策	１名
障がい児保育	１名	食育・アレルギー	１名
乳児保育	１名	子育て支援・保護者支援	２名

園内研修

６月２２日　「応急手当の基礎を知り救命処置を身につける」
（主任、保育士、栄養士、保育補助）　９名
８月　５日　「環境保育について考え学びを深める」
（園長、主任、保育士、栄養士）　６名
１１月３０日　「ハラスメントについて」
（園長、主任、保育士、栄養士、調理師、保育補助）　３６名
１２月１２日　「子どもの情緒について」　（主任、保育士、保育補助）　１１名
２月　４日　「いま、乳児保育に求められるもの～育児担当制が育てるもの育むもの」
（オンライン）　（保育士、栄養士）　８名
２月２０日　「感染症について」　（主任、保育士、栄養士）　１２名

2022 年度の研修は、コロナ感染症拡大防止のため、ほとんどがｚｏｏｍでの開催であった。経験年数や責務に応じた研修計画を立て日程調整を行い、全職員が計画に基づき研修に参加できるよう配慮した。

7　施設整備等

2022 年度は資金面が厳しく大きな修理や整備はできなかった。